

インターネットによるカウンセリング, 援助活動について(4)

林 潔

遠隔カウンセリングの一つとしてのインターネット(以下IT)によるカウンセリング, 援助活動も現在多方面にわたって実施されている。本報告では, Eメール(以下, メール)による高校におけるカウンセリングと, スーパービジョン, コンサルテーションの可能性について検討する。

その前にまずITによるカウンセリング, 援助活動の, 最近の状況を概観しよう。2004年に開催された筆者が出席した内外の学会から, ITによる活動に関連するものを次ぎにあげる。

(1) 医療・保健関係

重量コントロール(Ashihara et al 2004), 禁煙指導(Borland 2004), 身体的活動への援助(Marcus, et al 2004), 栄養指導(Verheijden et al,2004), 医療の問題について素人の助言の問題(Bromme et al,2004),

(2) 精神病理関係

恐慌性障害(Klein,2004), パニック障害と広場恐怖への認知行動療法(Alvarenga et al,2004), 恐慌性障害と広場恐怖(Richards et al,2004), 不安障害の質問紙(直接記入との対比)(Austin et al,2004), ADHD患者の日記メールによる援助(水谷,2004), PTSDについての認知行動療法の利用(Maercker et al,2004), 健康・精神保健への介入(Richards et al.,2004)

(3) カウンセリング/相談

ひきこもりへの有効性(大竹,2004), メールと面接併用事例(笹林, 他, 2004;青木, 2004), オンラインカウンセリングの特徴(Glass et al., 2004), メール相談の導入的役割(里見, 他, 2004),

メール上でしか知らない友達に相談する高校生の心理的特徴: 神経症的傾向が強い(上原, 他, 2004), 高校生の相談の有効性と危険性(藤浪, 他, 2004), メール相談の評価(大森, 2004;山口, 他, 2004)

(4) カウンセリング, 心理療法のシステム

テストのガイドライン(Bartram, 2004; Coyne,2004), ガイダンスシステム(Zhao et al,2004), スーパーバイザー訓練(Kobayashi et al,2004)

(5) コミュニケーション様式の検討

自己開示機能(鈴木, 2004), オンライン上の自己概念(Chester et al.,2004), オンラインの会話の特徴(Tan et al.,2004), 自己表出による内的変化(田中, 2004), 再保証を求める人のコミュニケーション様式(Katsuya,2004), 対人関係づくりとしての効果(川越, 2004)

その他学会誌では, インターネットによるトイレットトレーニングの援助(Ritterband et al, 2003), PTSDによるストレス処置(Lange,2003), 方法論の検討としては, Richardsら(2004)は認知行動療法による介入が, 情報提供による介入よりも勝ることを指摘している。

すなわち医療・保健関係では患者(被援助者)に対する指導・指示の方法の一つとなっている。精神病理関係では患者への連絡指示の手段と併せて, 認知行動療法の手続きが利用されている。面接間をつなぐ手続きや, 面接との併用も行われている。

目的

教育の場のパーソナルサービスにおいて、メールがどのように利用されているであろうか。

本報告では高校教員による e-learning と e-helping における IT の利用の現状について明らかにする。あわせて高校教員の場合のスーパービジョン、コンサルテーションにおける IT の役割について検討する。

方法

日本カウンセリング学会会員名簿(2004)に記載されている高校教員(養護教諭および非常勤講師を除く)331人より2/3をランダムに抽出した(ただしこの場合、校長、教頭職を除いた)、221人を対象に調査を行った(2004年10月-11月)。回答は72、回答率は32.6%であった。

結果

各設問と、それについての回答は、Table 1 から8のとおりであった。

Table 1-1 生徒に対する事務連絡、照会など、一般的なかかわりとして、メールを利用しておられますか。

1. よく利用する	5
2. 利用する	22
3. あまり利用しない	8
4. 利用しない	37
無回答	0
合計	72

Table 1-2 利用されている場合どのように利用されていますか。

1. 生徒のケータイあて	29
2. 生徒のパソコンあて	2
3. 家庭のパソコンあて	0
4. その他	1
無回答	5
合計	35

Table 1-3 どのようなことがらに利用されていますか(例)

事務連絡 *事務連絡 *緊急連絡 *保護者との連絡 *入試に関する連絡事項、日程の確認 *部活動の予定変更、

個人的かかわり *「どうや?」「おやすみ」「つかれたなあ」などのなげかけ。返事は求めない。
*学校のことも、むしろ一般的なかかわり *担任としてのアドバイス等 *簡単な質問への回答 *相談への回答 *進路、個人情報 *授業の質問 *不登校生徒に近況をたずねる *気になる生徒への一言 *不登校の子との連絡

その他 *面接の予約

Table 1-4 生徒に対する事務連絡、照会など一般的なかかわりとしてのメールの利用について、御意見をお書き下さい。

肯定的

*メールの方が意志や気持が通じやすい、緊急性や必要な時よい手段 *高校生に多く普及しているので便利 *メールによる行動、心情への影響は非常に大きい。一斉メールによるクラス全員への連絡は100%とっていいほど実行される *直接話せない子どもたちがメールだと気持が話せるので便利 *高校生ともなると親に知られたくない内容があるので便利 *こちらの都合で返信できる *生徒への呼び出しや連絡で、放送等で個人名を使うよりよい場合がある *生徒がよく利用しているツールなので、確実に連絡がとれる *緊急時にはとても有効で、助かる *教師側が特に気にしなければ便利であるので、今後も利用したい

否定的

*直接会って連絡する方が、こちらの姿勢が伝わる *あまり深くかかわるさいにはふさわしくない。一方通行でありいろいろな意味で相談のワケ組みをこわす危険性が大きい。 *生徒からの相談も、ある程度のところで距離感を保つ必要がある。

*高校教育現場でメール等の使用は人間関係を

表面的なものにする傾向がある * 安直に使用すると弊害もある * プライベートなことまで踏みこまなければならない危険がある * 口頭ですむ事務連絡は、(メールを用いると) 情報錯誤の原因になる * 顔を見、声を聞きながら話すのではなく、短い文のやりとりは、かなりリスクがある。イヤな経験をしているので、積極的には考えない。電話の方が声があるだけかなりリスクは回避されると体験的に思う。 * 便利な反面セキュリティなどの面で問題がないともいえない * メールは時間制限がないので利用しない(深夜でも入るが見るとは限らない) * 個人的感覚ではメール<電話<直接会う、という感じ * 確実にその人の気持ちが伝わるか不安 * 高校生には必要なし * 対面で大体の用事はすむ

その他

* 校則で携帯を禁じている * 完全に利用できるような学校組織の体制ができればかなり有効活用できる * 便利である反面、多くの生徒からメールが来ると常に気をつけていなければいけないので、あまり頼らない、頼らせないようにしている * 対応する人数が増えると大変 * 生徒にとっては気軽に先生に連絡でき、便利だが、教師は返信が負担になる * 「送った」「見ていない」とトラブルに注意する必要があると思う

事務連絡あるいは簡単な連絡については、比較利用されていると言える。その場合ケータイへの対応がほとんどである。問安の手段としても使われている。

同性の場合悩み相談(進路、不登校、体調の気遣い)、異性は緊急連絡、部活動の連絡と使い分けておられる方もある。特にメールが来過ぎた場合の対応は厳しい。送信者は早めの返信を求めている。時間が経過するほど対応が消極的と考えかねない。しかし先生の側は、対応には専念できないだろう。どういう場合でも、メールによる対応の基本的な問題点である。

Table 2-1 生徒に対する学習指導として、メールを利用されていますか。

1. よく利用する	0
2. 利用する	5
3. あまり利用しない	9
4. 利用しない	58
無回答	0
合計	72

Table 2-2 利用されている場合、どのように利用されていますか。

1. 生徒のケータイあて	8
2. 生徒のパソコンあて	3
3. 家庭のパソコンあて	0
4. その他	0
無回答	3
合計	14

Table 2-3 生徒に対する学習指導としてのメールの利用について、御意見をお書き下さい。

肯定的

* 文学探訪という課外授業で俳句と短歌の創作をすぐにメールで送らせた * ある種の指導では役に立つかもしれない * 提出物のさいそく * 単純な事柄での学習指導についてはいいことかも知れない * テスト前に低学力や自信をなくしている生徒に励ましのメールを送る。好評なのでよいと思う * テスト前などに質問が多いが、個人指導ができ有効 * 生徒の安心のためにメールアドレスを教えることはいいのではないか * 特定の時間、場所の設定の必要のないメールを利用した個別学習指導は、今後ますます有効活用されると思う。 * ポイントをpushするためのメールであるならばいい * 質問の回答など * 宿題をメールで送付させる工夫も今後考えていきたい、パソコン宛の利用になるが * 登校できない生徒に対しては有効 * 長期の休み、講師の先生への連絡とい

うように直接会うことがむずかしい場合有効と思う

否定的

* 文字では理解できないからこそ直接質問に来る、毎日顔を会わせている生徒には必要ない * メールを使つての学習指導は不必要 * むしろ依存度を大きくしすぎる * 非言語コミュニケーションが介在しないので、有効な指導とは考えにくい * 今のところ何も考えていない。あまりメリットを感じていない

その他

*これは内容にもよるが、読解力、文章力ともにあるレベル以上の生徒でなければ役に立たないか、誤解することが多いと思う

学習指導への利用は、ほとんど行われていないといってよい。しかし、メールによる指導例も紹介されていた。

Table 3-1 生徒に対するカウンセリング、ガイダンスや相談において（相談室の場合は次項）、メールを利用しておられますか。

1. よく利用する	3
2. 利用する	17
3. あまり利用しない	11
4. 利用しない	40
無回答	1
合計	72

Table 3-2 利用されている場合、どのように利用されていますか。

1. 生徒のケータイあて	15
2. 生徒のパソコンあて	5
3. 家庭のパソコンあて	2 重複 1
4. その他	0
無回答	10
合計	31

Table 3-3 生徒に対するカウンセリング、ガイダンスや相談としてのメールの利用について、御意見をお書き下さい。

肯定的

*手紙では時間差が生じ、くいちがいが起きがちだがメールは現時点での生徒の気持ちがかみとれるので非常に有効 * 学校で相談できないことなど相談できる * 微妙な心理把握のため、今後必要性はますます高まると思う * 対面の面接ができるようにメールを利用 * 短い文面で細かく対応できて便利。生徒の不安が少なくなる * 卒業生からの相談や深夜相談など * 数回のカウンセリング後で関係がある程度でき、了承していれば連絡伝達ぐらいの使い方なら OK かもしれない * 生徒自身がメールに積極的な関心がある場合には有効。電話では相手が出ないこともあり、家族に知られたくない内容もあろう。手紙は生徒の返事が来ることはめったになく一方的になりがちだ。 * 相談の予約、単純に答えられる内容での対応に便利 * 気軽に利用でき本音も知ることができる * 生徒にとっては相談箱に入れるより、心理的な壁が低い * 個別のやりとりには便利 * きっかけ作りになっている * 夜間お互いにホットした時間帯に簡単な一言メール等 * 不登校生徒へのコンタクトに有効

否定的

声の調子、表情からの情報は大切なので、実際に会いながら話すのが望ましい * よほどトレーニングを受けた人でなければ不可能 * 文字での伝わり方には、危険性が大きい * 生徒に対して親密になりすぎる危険 * メールで思いが通じる言葉を選びきれない * 感情に一方通行、非言語の部分が見えないのであまり利用しない

その他

*緊急の場合は有効と思うが、顔が見えていない分心配。相手が依存的になりすぎることもあった。*あくまで緊急対応で、相談室につなぐなどしないと不十分 * メールから次の段階に移す時がむずかしい * 時間を考慮しないことに一長一短 * パ

ニック障害の生徒とたまにやりとりをした、使い
方によっては有効と思うが会って話をする
ことが大事

メールによるカウンセリングについては消極的
な傾向である。その中でもメールの即時性が買
われている。

**Table 4-1 公式のカウンセリング（相談室）
でメールを利用されていますか（相談室に関係さ
れている場合になります）**

1. よく利用する	5
2. 利用する	6
3. あまり利用しない	3
4. 利用しない	50
無回答	8
合計	72

**Table 4-2 利用されている場合、どのように
利用されていますか。**

1. 生徒のケータイあて	5
2. 生徒のパソコンあて	3
3. 家庭のパソコンあて	1 重複 1
4. その他	0
無回答	6
合計	14

**Table 4-3 公式のカウンセリングにおける
メールの利用について、御意見をお書き下さい**

肯定的

*個人的には賛成。生徒とのつながりは手段を選
ばない *自殺念慮や突発行動もあるので、やむを
得ない使い方だと思う * 意外に効果的な場合も
ある * 面接と面接の間を補充・補完する * 主に
面接のアポイントメント * メールマガジンのよ
うなものを発行してもいいかと思う * 人に会う

ことができない生徒とでも、連絡がとれることが
ある *連絡導入には利用できる *信頼関係がで
きていれば有効だし時間的に助かる * 意志の疎
通には便利

否定的

*本人を観察しながらの面談ができないため、字
だけが動くことからのトラブル、誤差が生まれる
*現場では使えない。危険性大きい *相談の申
し込みのみに利用 *守秘義務はあるが、そのまま
他の教員に視られたりして、むずかしい * 責任
の所在が不明確になる可能性がある * プライバ
シーに関する点が疑問 *ケースバイケース。アメ
リカでカウンセリング修士課程の実習時も、カウ
ンセリングに使うことはなかった。アドバイザー
と話す時もアポイントメントはボイスメールでと
り対面していた。情報のみならず、その場で出て
くる感情の処置ができず、危険と思う *秘密保持
の面で不安あり、非言語メッセージが見えないの
で危険 * 公式カウンセリングは成立しない *
メールのように記録が残るものは危険

その他

*慎重に対応していくべき *一応相談室のメー
ルアドレスを公開しているが、利用はほとんどな
いので何ともいえない * 一つの方法と考えるが
顔が見えないのでリスクが大きい * クライエン
トが希望するならメール利用もいいと思うが、感
情がストレートに伝わりにくく話が閉じられたよ
うになると思うので注意が必要 * 学校に来るも
のは現在まで利用していないが、検討の余地はあ
ると思う

公式のカウンセリングでは、非公式のそれより
も消極的である。機会を設けてもメールが来ない
というケースもある。またその学校のITの設定の
条件も関係しよう。技法としては方法を考慮され
ている方もある (Table 5)。

Table 5 個人的でも、公式でも、メールによるカウンセリング、ガイダンス、相談において先生が意識的に使われているカウンセリング技法がありますか。もしあればお書き下さい。

*折衷 *認知行動療法(SST) *日頃は現実療法が中心 *自律訓練法, 丹田呼吸法, リラクゼーション *ブリーフカウンセリング

Table 6 カウンセリング、ガイダンス、相談の場合、メールのやりとりで重視するのは、先生の場合一般にどのような点でしょうか。

	重視 しない	やや 重視 する	重視 する	ケース バイ ケース
1. 情報の収集	12	15	15	15
2. 情報の提供	10	13	16	17
3. 感情の共有	15	12	16	13
4. 指示	13	17	7	19
5. 状態の把握	11	10	14	23
6. コミュニケーションをつける	12	14	21	9
7. 生徒の感情の表現の促進	23	8	11	17
8. 生徒の気づきの促進	17	11	16	15
9. 生徒の考え方の整理の促進	15	9	19	16

メールでのやりとりは、生徒とのコミュニケーションをつけるという点が重視されている。

Table 7-1 スーパービジョンを「受ける」頻度はどの程度ですか。

1. 必要に応じて随時	20
2. 定期的, 週1回程度	0
3. 定期的, 週2回程度	1
4. 定期的, 月1回程度	4
5. 定期的, 2-3か月に1回程度	2
6. 定期的, 年1回程度	2
7. たまに	12
8. 特にない	31
合計	72

Table 7-2 スーパーバイザーとして特定の方がおられますか。

1. いる	23
2. いない	28
3. いないが必要に応じて依頼する	18
無回答	3
合計	72

Table 7-3 先生はどのようなかたちで、「スーパービジョンを受けて」おられますか。受けておられる場合ご記入下さい。

	ない	あまりない	ある	よくある
1. 面接	5	7	28	7
2. FAX	35	3	3	
3. Eメール	27	4	6	3
4. 手紙	27	6	7	1
5. 電話	13	13	14	2
6. その他	29	1		

Table 7-4 先生はどのようなかたちで、「スーパービジョンを他の方に対して実施して」おられますか。実施されておられる場合ご記入下さい。

	ない	あまりない	ある	よくある
1. 面接	7	4	18	5
2. FAX	26	3	2	
3. Eメール	21	3	8	
4. 手紙	20	5	4	3
5. 電話	11	7	13	1
6. その他	21	1	1	

スーパービジョンについては、必要に応じて随時という場合が多い。定期的な方は少数である。もっともこれは校務分掌が大きく関係しよう。スーパーバイザーについては、Table 7-2のように3つのパターンに分かれる。スーパーバイズを「受ける」場合は面接、電話、手紙に順となる。しかし「実施する」場合では面接、電話、メールの順となっている。

Table 8-1 先生はどのようなかたちで、「コンサルテーションを他の方に依頼して」おられますか。依頼している場合ご記入下さい。

	ない	あまりない	ある	よくある
1. 面接	7	13	24	4
2. FAX	37	5		
3. Eメール	33	6	3	
4. 手紙	26	4	13	4
5. 電話	18	6	19	1
6. その他	32	1		

Table 8-2 先生はどのようなかたちで、「コンサルテーションを他の方に対して行って」おられますか。行っている場合ご記入下さい。

	ない	あまりない	ある	よくある
1. 面接	8	7	26	6
2. FAX	38	2	1	
3. Eメール	30	3	6	1
4. 手紙	31	5	3	2
5. 電話	18	8	13	3
6. その他	30	1		

コンサルテーションを依頼する場合は、面接、電話、手紙の順になる。コンサルテーションを実施する場合でも同様である。

考察と課題

高校教諭の場合メールを利用した相談活動は、学習援助活動と共に積極的には捉えられてはいない。相談活動についてのメールの利用については、大学の場合に比べて消極的である。高校の場合、個々の生徒との直接のコミュニケーションをとりやすい環境にある。従って直接のコミュニケーションに代わる手段が、一般にはさほど必要とされていないところがある。

それに対してメールがスーパービジョン、コンサルテーションの手段として一部使用され始めて来ている。個々の教員とスーパーバイザー、コンサルタントの間には物理的な距離がある。メールがこの距離を埋める手段として使われ始めてい

るといえる。

スーパーバイザーが経験、自信、必要な能力を身につけてくると、支持的なスーパービジョンを好まなくなるし、スーパーバイザーに対してもスーパーバイザーとアイデアを分かち合い、共に学びリソース・パーソンとして見始めるようになるろう (Borderet al.)。さらに問題点の指摘を積極的に求めるようになる。いずれにせよスーパービジョン、コンサルテーション共に基本的な書式設定がなされる方が便利である。Table 9, 10はその一例である。

Table 9 メールによるスーパービジョン書式 (例)

<p>メールによるスーパービジョン</p> <p>以下に記入できる範囲でご記入いただき、返信して下さい。</p> <p>氏名 (所属)</p> <p>メールアドレス</p> <p>来談者の年齢</p> <p>来談者の職業</p> <p>来談者にとっての主要な問題</p> <p>個人的条件</p> <p>外的条件 (社会的背景)</p> <p>来談者の対処法の特徴</p> <p>この事例を考えるとどんなイメージがわいてきますか</p> <p>カウンセラーからみた来談者の特徴と問題点</p> <p>来談者がどのようになればよいか</p> <p>長期目標</p> <p>短期目標 (とりあえずどうなればよいか)</p> <p>来談者の可能な選択肢</p> <p>来談者の合理的選択は何か</p> <p>カウンセラーの理論的立場</p> <p>この事例に採用しているカウンセラーの理論的方針/技法</p> <p>スーパーバイザーに求めるもの</p> <p>事例の概要</p> <p>事例の問題/課題となる点 (必要なら逐語)</p> <p>もし他の対応をすればよいと思った場合、その対応の仕方を書いて下さい。</p>

Table 10 メールによるコンサルテーション書式 (例)

<p>メールによるコンサルテーション</p> <p>以下に記入できる範囲でご記入いただき、返信して下さい。</p> <p>氏名 (所属)</p> <p>メールアドレス</p> <p>来談者の年齢</p> <p>来談者の職業</p> <p>来談者にとっての主要な問題</p> <p>個人的条件</p> <p>外的条件 (社会的背景)</p> <p>来談者の対処法の特徴</p> <p>カウンセラーからみた来談者の特徴と問題点</p> <p>来談者がどのようになればよいか</p> <p>長期目標</p> <p>短期目標(とりあえずどうなればよいか)</p> <p>来談者の可能な選択肢</p> <p>来談者の合理的選択は何か</p> <p>カウンセラーの理論的立場</p> <p>この事例に採用しているカウンセラーの理論的方針/技法</p> <p>事例の概要と課題</p> <p>コンサルテーションの内容</p>

カウンセリング、相談ではメールは自己表現の一つとしての意味がある。しかしメールによるコミュニケーションの問題も浮き彫りとなっている。メールによるコミュニケーション様式の特徴と限界としては例えば学生はメール上の会話を、対面での口頭の会話、あるいは電話での会話と同質なものと認識しており、他方教員はこれらの代替と認識しているという食い違いに行きつくように思われる(吉田, 2003)という指摘もある。また匿名性による没個性化の問題は社会心理学で指摘されている(大坊, 2004)。メールのコミュニケーションも、メールのみのコミュニケーションと、面接併用の場合とを分けて考える必要がある。

メールによるカウンセリング活動について振り

返してみると、学生相談、職場相談と地域相談活動の一部(教育)に関心がもたれており、高校の相談、地域相談の一部(児童)では消極的である。このことは被援助者の年齢と、直接の対応ができるかどうかという可能性に関わっているといえる。

メールによる対応は、第三者が閲覧する可能性があることを前提として行われる必要がある。いずれにせよメールによる対応はあくまでもメール・カウンセリングであり、メール・スーパービジョン/コンサルテーションとして理解される必要がある。それは電話による相談は、あくまでも「電話相談(電話カウンセリング)」であるのと同様である。そこには面接相談と共通と異質の部分がある。またよし面接による対応がよいとしても、時に応じては、次善の対応も考慮される必要もあろう。面接を求めても、結局はそれが不可能ということもある。コンタクトを求める人に対して、それぞれの限界は理解しながらも多様ないわば窓口を用意しておくことも意味があるのではなからうか。あわせてメールもふくむ遠隔カウンセリングの倫理についての、共通理解が設定される必要がある。

参考文献

- Alvarenga, M.E., Richards, J.C., & Klein, B. 2004 Efficacy of internet-based cognitive behaviour therapy for panic disorder and agoraphobia. *Australian Journal of Psychology*, 56, Supplement, 155.
- 青木智子 2004 学内の連携と相談のあり方 日本学生相談学会第22回大会プログラム発表論文集, 52-53.
- Arrendondo, P., Shealy, C., Neal, M., & Winfrey, L.L. 2004 Consultation and interprofessional collaboration: Modeling for the future. *Journal of Clinical Psychology*, 60, 787-800.
- Ashihara, M., Kamiya, Y., Takenaka, K., Uechi, H., & Ooba, Y. 2004 Using cell-phone to deliver

a behavioral weight control program in Japanese young women. *International Journal of Behavioral Medicine*, 11, Supplement, 290.

Austin, D.W., & Richards, J.C. 2004 Internet-administration of anxiety disorder questionnaire: Equivalence to pencil-paper administration. *Australian Journal of Psychology*, 56 Supplement, 158.

Bartram, D. 2004 The need for international guidelines on computer-based testing and the internet. *28th International Congress of Psychology Program Book*, 57.

Borders, L.D., & Leddick, G.R. 1987 *Handbook of counseling supervision*. Alexandria, Virginia: Association for Counseling Supervision, APA.

Borland, R. 2004 Strategies to enhance use of an internet delivered smoking cessation program. *International Journal of Behavioral Medicine*, 11, Supplement, 78.

Botella, C., Holfman, S.G., & Moscovitch, D.A. 2004 A self-applied, internet-based intervention for fear of public speaking. *Journal of Clinical Psychology*, 60, 821-830.

Bromme, R., & Jucks, R. 2004 Experts under illusion of evidence: Pitfalls of establishing mutual understanding in online medical advice of layperson. *28th International Congress of Psychology Program Book*, 39.

Chester, A., & Bretherton, D. 2004 Tall, thin, and beautiful: Self-concept online. *Australian Journal of Psychology*, 56 Supplement, 168.

Corey, G., Corey, M.S., & Callanan, P. 2003 *Issues & ethics in the helping profession*, six edition. (村本詔司監訳 2004 援助専門家のための倫理問題ワークブック 創元社)

Coyne, I. 2004 The development of international guidelines on computer-based testing and the internet. *28th International Con-*

gress of Psychology Program Book, 57.

大坊郁夫 2004 わたしそしてわれわれ 北大路書房

Falender, C.A., Erickson-Cornish, J.A., Good-year, R., Hacher, R., Kaslow, N.J., Leventhal, G., Shafranske, E., & Sigmon, S.T. 2004 Defining competencies in psychology supervision: A consensus statement. *Journal of Clinical Psychology*, 60, 771-785.

藤浪直紀・日野宣千 2004 I子の事例を通してメール相談の有効性と危険性を考える 日本カウンセリング学会第37回大会発表論文集, 125.

Glass, C., & Chester, A. 2004 Online counselling: A descriptive analysis of therapy services on the internet. *Australian Journal of Psychology*, 56 Supplement, 186-187.

林潔 2004 認知行動カウンセリングと援助活動 犀書房

Johnson, A.N. 2003 *Understanding the psychology of internet behavior: Virtual worlds, real lives*. (三浦麻子・畦地真太郎・田中敦訳 2004 インターネットにおける心理と行動 北大路書房)

Katsuya, N. 2004 How does high reassurance-seeking person communicate with significant others?: An examination of communication through cell phone e-mail. *28th International Congress of Psychology Program Book*, 260.

柿井俊昭・牧久雄・畑洋一・中川正広・西田容子・大沢良隆 2004 マルチメディア・カウンセリングの実用化研究 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 436.

川越勝 2004 対人関係づくりが難しい中学生への関わり方支援 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 126.

Klein, B., & Richards, J. 2004 Enhancing the quality of life for people with panic disorder via the use of an internet-based ther-

apy. *International Journal of Behavioral Medicine*, 11, Supplement, 152.

Kobayashi, Y., Kawakami, N., Takao, S., Tsutsumi, A., & Fujiwara, K. 2004 Effects of web-based supervisor training on supervisor support and psychological distress among workers: a randomized controlled trial. *International Journal of Behavioral Medicine*, 11, Supplement, 170-171.

Lange, A., Rietdijk, D., Hudcovicova, M., van de Ven, J., Schrieken, B., & Emmelkamp, P.M.G. 2003 Intertherapy: A controlled randomized trial of the standardized treatment of posttraumatic stress through the internet. *Journal of Consulting & Clinical Psychology*, 71, 901-909.

Maercker, A., Knaevelsrud, C., Wagner, B., & Lange, A. 2004 Intethrapy: A treatment trial of cognitive-behavioral therapy of posttraumatic stress through the internet. *28th International Congress of Psychology Program Book*, 392.

Marcus, B., Lewis, B., & Napolitano, M. 2004 Using e-mail and the internet to promote physical activity. *International Journal of Behavioral Medicine*, 11, Supplement, 198.

McMahon, M., & Patton, W. 2002 *Supervision in the helping professions*. French-Forest, N.S.W.: Pearson Education Australia.

水谷紀子 2004 過食・嘔吐、希死念慮を持つ成人ADHD 女性の自己受容促進過程 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 127.

大森拓哉 2004 学生相談におけるIT化と来談者データの分析 日本学生相談学会第22回大会プログラム発表論文集, 64-65.

大竹由美子 2004 ひきこもりネット相談によせられたメールの内容分析 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 350-351.

Richards, J.C., Klein, B., & Alvarenga, M.E. 2004 Efficacy of internet-based cognitive

behaviour therapy for panic disorder and agoraphobia. *World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies 2004 Abstract*, 166.

Richards, C.J., Klein, B., Austin, D.A., Alvarenga, M.A., & Pier, C. 2004 The problem of attrition in internet-based health and mental health intervention. *Australian Journal of Psychology*, 56, Supplement, 219-220.

Ritterband, L.M., Cox, D.J., Walker, L.S., Kovatchev, B., McKnight, L., Patel, K., Borowitz, S., & Sutphen, J. 2003 An internet intervention as adjunctive therapy for pediatric encopresis. *Journal of Consulting & Clinical Psychology*, 71, 910-917.

笹林実香・宗本和菜・稲垣応顕 2004 携帯メールを用いた相談活動に関する事例研究 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 244-245.

里見春香・下司昌一 2004 大学生におけるメール相談導入に関する一考察 日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集, 242-243.

Ström, L., Pettersson, R., & Anderson, G. 2004 Internet-based treatment for insomnia. *Journal of Consulting & Clinical Psychology*, 72, 113-120.

鈴木晶子 2004 インターネットの機能と心理的特質に関する質的研究 日本心理学会第68回大会発表論文集, 1057.

Tan, J., Bretherton, D., & Kennedy, G. 2004 Negotiating online: How and why the communication context makes a difference. *Australian Journal of Psychology*, 56 Supplement, 226.

瀧本孝雄・林潔 1996 教育カウンセラーに対するスーパービジョンの役割に関する一考察 獨協大学教養諸学研究, 31, 77-92.

田中美帆 2004 インターネット上の自己に関する研究(3) 日本心理学会第68回大会発表論文集, 189.

上原和美・中山洋・山口正二 2004 「メール友

達」によるカウンセリングに関する実証的研究
日本カウンセリング学会第38回大会発表論文集,
240-241.

Vazire,S.,& Goslin,S.D. 2004 e-Perceptions:
Personality impressions based on personal
websites. *Journal of Personality & Social
Psychology*, **87**,123-132.

Verheijden,M.W., Genuchten, P.P.L.,van,
Bakx, J.C., Hoogen, H.I.M., van den, God-
win, N.M.S., Staveren, W.A., van, & Weel, C.,
van. 2004 Web-based nutrition counselling
and social support: Users and use of an on-
line intervention tool.*International Journal of
Behavioral Medicine*, **11**,Supplement,135.

山口正二・上原和美 2004 顔が見えない「メー
ル友達」との心理的距離 日本カウンセリング学
会第38回大会発表論文集, 238-239.

吉田文 2003 アメリカ高等教育における e
ラーニング 東京電気大学出版局

Zhao,H., & Wu, M. 2004 On design of com-
puter career design system. *28th Interna-
tional Congress of Psychology Program
Book*, 209.